

第36期 「筑豊ゼミ」 報告書

2023.04～2024.03

NPO法人住学協働機構

筑豊地域づくりセンター



「筑豊ゼミ」とは・・・

NPO法人住学協働筑豊地域づくりセンターが運営する研究会です。

ふるさと・筑豊の「豊かなまちづくり」という理念のもと、筑豊という広いフィールドを舞台に、地域住民と近畿大学産業理工学部をはじめとする地域の大学が協働して地域づくりを様々なテーマで研究しています。

住学協働で地域に関する活動を行うことで、生涯学習の場を提供したり地域活動グループのネットワーク化促進・新しい将来像の形成・地域経済の健全な発展のための仕掛けづくりを行っています。

「研究会活動」

今期は下記の研究会活動が行われました。

特に「まちづくり」を共通テーマとして第35期から活動を始めた写真部と勝手に提案研究会は合同活動となり、今期活発に活動範囲を広げており、市や地域の方々とのネットワーク化の促進が進みました。

- 01.写真家2.0/筑豊地域おこし研究会（写真部） + 02.住み続けたいまち・住んでみたいまち 勝手に提案研究会
- 03.市民遺産研究会
- 04.つかこうへいと筑豊研究会
- 05.古代のロマンに酔う研究会

※情報発信/データデザイン研究会(Pd.D研)は、活動休止中です

01.写真家2.0/筑豊地域おこし研究会（写真部）

02.住み続けたいまち・住んでみたいまち～勝手に提案研究会

筑豊の魅力に気づき、故郷を大事に思うふるさと魂を醸成する。
筑豊地方には、住民それぞれの生活圏外にも、たくさんの知られざる魅力が隠れている。
しかし、その魅力も自ら進んで知ろうとしないと知ることができないのが現状である。
写真を撮るという行為を通じて、自ら進んで魅力を発見していこうとすることで、新たに気づきを得、更にはその土地やそこに住む人たちにも興味を持つようになる。
コミュニティが繋がるためにはコンテンツが必要であり、今やだれでも気軽に撮れるようになった写真がその役割を担うことができる。
この研究会のプロジェクトを通じて「地域を好きでい続ける」、サステナブルなコミュニティを醸成することを目標としています。

※まちづくり活動を目的とした活動として「02.住み続けたいまち・住んでみたいまち 勝手に提案研究会」との協働活動を行っています。

写真家2.0/筑豊地域おこし写真部について

※まちづくり活動を目的とした活動として「勝手に提案研究会」と「写真部」の協働活動としています



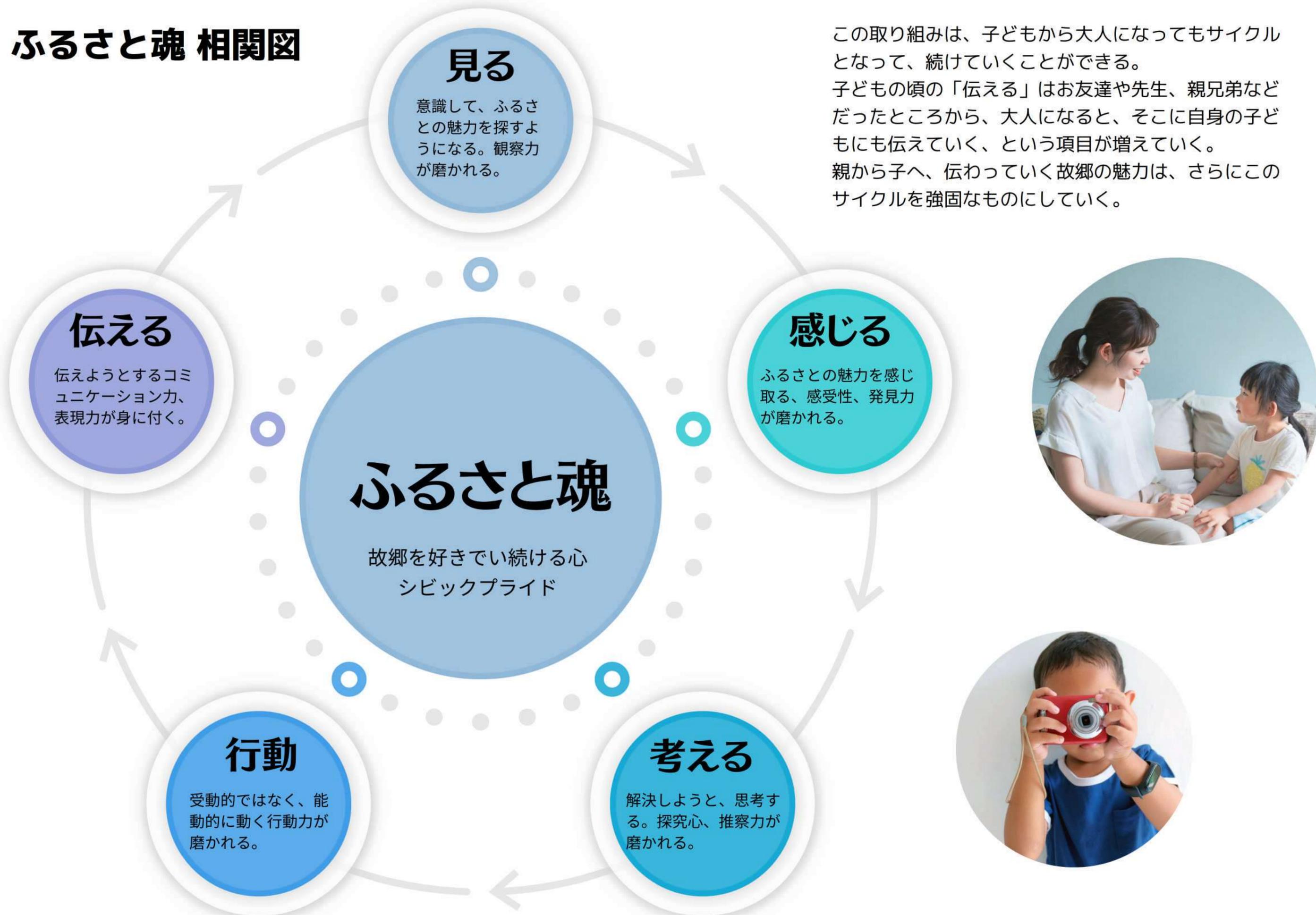
活動の目的

**飯塚の魅力に気づき、
故郷を大事に思う
ふるさと魂を醸成する。**

飯塚市内には、住民それぞれの行動範囲の外にも、
たくさんの知られざる魅力が隠れている。
このフォトプロジェクトを通じて、改めてその魅力に
気づき、「地域を好きでい続ける」、サステナブルな
コミュニティを醸成する。

魅力を知ることが、仮に将来、市外から出ることがあ
ったとしても、何かあった時「いつか」また飯塚に戻
ってこようという気持ちになることができる。

ふるさとと魂 関連図



フォトプロジェクト3つの軸

写真がなぜ地域コミュニティの醸成に最適なのか、それは写真の持つ、汎用性、簡易性、広報力という特徴が挙げられます。

1. 写真部の結成

地域の魅力を再発見し、自ら故郷の魅力を発信する広報部隊

幅広い年齢、男女、様々な職種問わず、誰でも参加でき、カメラを通してまちを見ることで、魅力だけでなく問題点にも気づき、自ら行動するコミュニティが生まれる。



2. 小学校での写真を通じた総合学習

瑞々しい感性で、多様性、発見力、注意力、コミュニケーション力を磨き、飯塚の未来を担う子供達を育む

受動的な授業とは異なり、カメラを通して見たものを自ら感じて、考えて、行動する、思考力や観察力、判断力、コミュニケーション力を磨く総合学習授業。



3. 市民参加型フォトイベント

写真部と連携し、市内の魅力を伝える写真展、およびワークショップの開催

写真部が主体となり、活動を通して撮影した飯塚市の魅力を写真展示イベントとして開催。イベント内では、写真部によるワークショップやゲストを招いたイベントなども開催予定。



1. 写真部の活動

六谷さんと連携し、近畿大学（建築デザイン学科）教授 小池氏、並びに小池ゼミの学生も新たに写真部メンバーとして参加。建築的な視点からのアイデアや展示プランなどを担当してもらっている。
その他、さまざまな分野からメンバーが集い、それぞれの強みを生かしたアイデアの提供や人脈からのアプローチなど、積極的に働きかけを行なっています。



2. 小学校での写真を通じた総合学習

写真部メンバーの働きかけもあり、立岩小学校、颯田小学校で提案が進行中。
2023年2月に教育委員会の校長会にてプレゼンしたことを覚えてくださっていた、立岩小学校の末永校長とは話が進み、実施の方向で話が進んできております。颯田小学校には3月18日提案予定。



多様性を認め合う

「先生を撮ってください」そのたった一言のみで、子供たちが一斉に動き出す。先生からの指示は一切ない。正面から、横から、後ろから、斜めからと色々な角度から撮る子供たち。

「先生を撮る」たったその一言だけでみんなの感じ方が違うことを理解し、多様性を理解する。



発見力、注意力を磨く

いつも使っている、知っているはずの教室であっても、角度を変えたり、ある部分だけをアップで見ると全く別物に見えてくる。注意深く観察することで、今までと違ったものの見え方がわかってくる。知ろうとしないと見えないものがあるということに気づき、何事も知った気にならないという考え方を身につける。



コミュニケーション能力の向上

「すこしうれしい」「すごくうれしい」という微かなニュアンスの違いを自分たちで考え、その様子を撮影する。コミュニケーションをとりながら、どう表現し撮影したらそう見えるかを考え、話し合いながら撮影をする。自分の思い(考え)を相手に伝えるということが、いか難しいか理解し、相手の気持ちになって考える心を育む。

3. 市民参加型フォトイベント

フォトまちプロジェクトの実施

概要

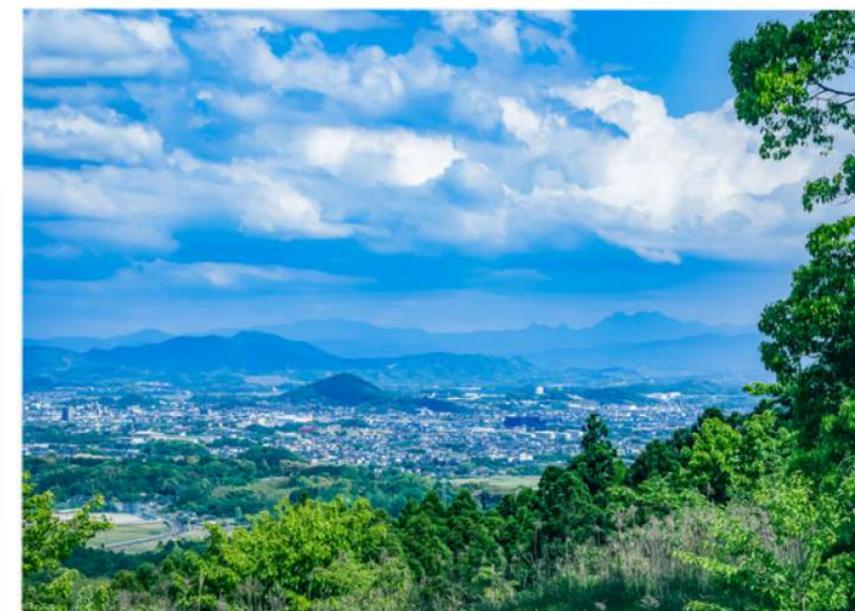
撮影会、講評会、写真展示までの総合フォトイベント。

「ふるさとへの誇りや愛着はどこから生まれるのか？」をテーマに再発見を促す。

撮影・講評・展示までのプロセスを通じて、参加者の探究心、観察力、発見力、推察力、表現力、感受性を磨き、まちの魅力に気づき、まちを愛するシビックプライドを醸成する。

まずは飯塚市で実施。様々な歴史を経た、今の飯塚市を写す。

将来的には筑豊全域でも実施できるようなイベントを目指す。



期待する効果

- ・飯塚のまちを写真を通じて探訪することで、新たな発見をしようとする探究心を促す
- ・講評会を通じて、参加者自身も撮影で気づかなかった新たな発見やまちの魅力に気づく
- ・撮影会や写真展を通じて、まちを訪れる目的をつくる
- ・写真展を周囲にも見てもらうことで、自分以外の住民もまちを訪れる流れを作る
- ・写真展を通じてまちの魅力を再発見することで、地元に興味を持ってもらう



イベントにおける三つの特徴



SHOOTING

撮影会



REVIEW

講評会



EXHIBITION

写真展

SHOOTING

撮影会

実施日：2023年11月3日（金）10：00～12：00

場所：各撮影エリア

飯塚市全域から4つのエリアに区分し、それぞれ班に分かれ撮影会を実施する（午前中）。

事前に各班の写真部員が、撮影エリアに合わせてテーマを話し合い、撮影地、撮影プランを決める。大テーマは「飯塚再発見」

当日の一般参加者は部員がアテンドする撮影地と一緒に訪れ撮影会を楽しむ。

撮影予定エリア

- ・ 飯塚街中（商業エリア、飯塚駅、新飯塚駅）
- ・ 旧穎田町方面（浦田駅、鯉田駅）
- ・ 旧二瀬町方面（西鉄バス）
- ・ 旧筑穂町・穂波町方面（天道駅、上穂波駅、筑前内野駅）



飯塚市



撮影エリア

飯塚市街地のほか、十数年前、合併以前まで別の自治体だったエリアも含め、4つのフォトスポットで撮影会を実施。飯塚市の「今」を撮りながら、新たな魅力を再発見する。4つのエリアには、それぞれ違う川も流れており、地域の特徴を捉えた写真が撮れる。

- ・飯塚街中（遠賀川）
- ・旧穎田町方面（庄内川、鹿毛馬川）
- ・旧二瀬町方面（建花寺川）
- ・旧筑穂町・穂波町方面（穂波川）

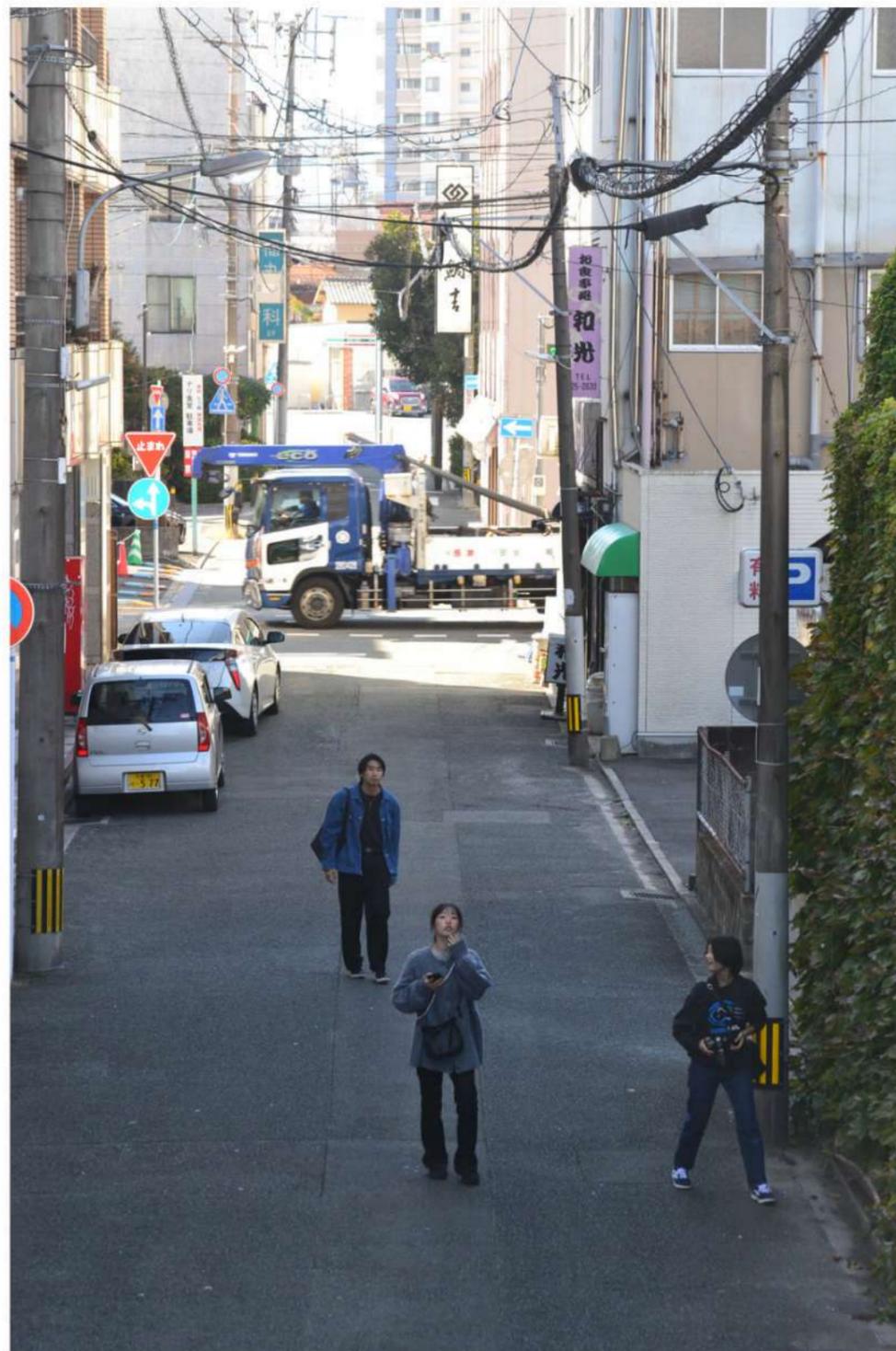
撮影スポット各エリアのテーマに沿った撮影をする。

午前撮影会	10:00~12:00
移動&休憩	12:00~13:50
午後講評会	14:00~17:00

移動方法

現地集合、現地解散

飯塚街中エリア



撮影スポット

- ・ 本町・ひがしまち商店街
- ・ 新飯塚駅周辺

撮影テーマ

新・旧
～新しさとなつかしさ～

撮影プラン

- ・ 市役所第2駐車場に駐車
- ・ 新飯塚周辺（商店街）を撮影
- ・ 遠賀川芳雄橋下駐車場に駐車
- ・ 吉原町を撮影
- ・ ひがし町商店街を撮影
- ・ 本町商店街を撮影
- ・ 本町商店街入口ゴール
- ・ 駐車場へ移動
- ・ ゆめタウンへ移動

旧颯田町方面エリア



撮影スポット

- ・ 颯田町エリア
- ・ 大門エリア

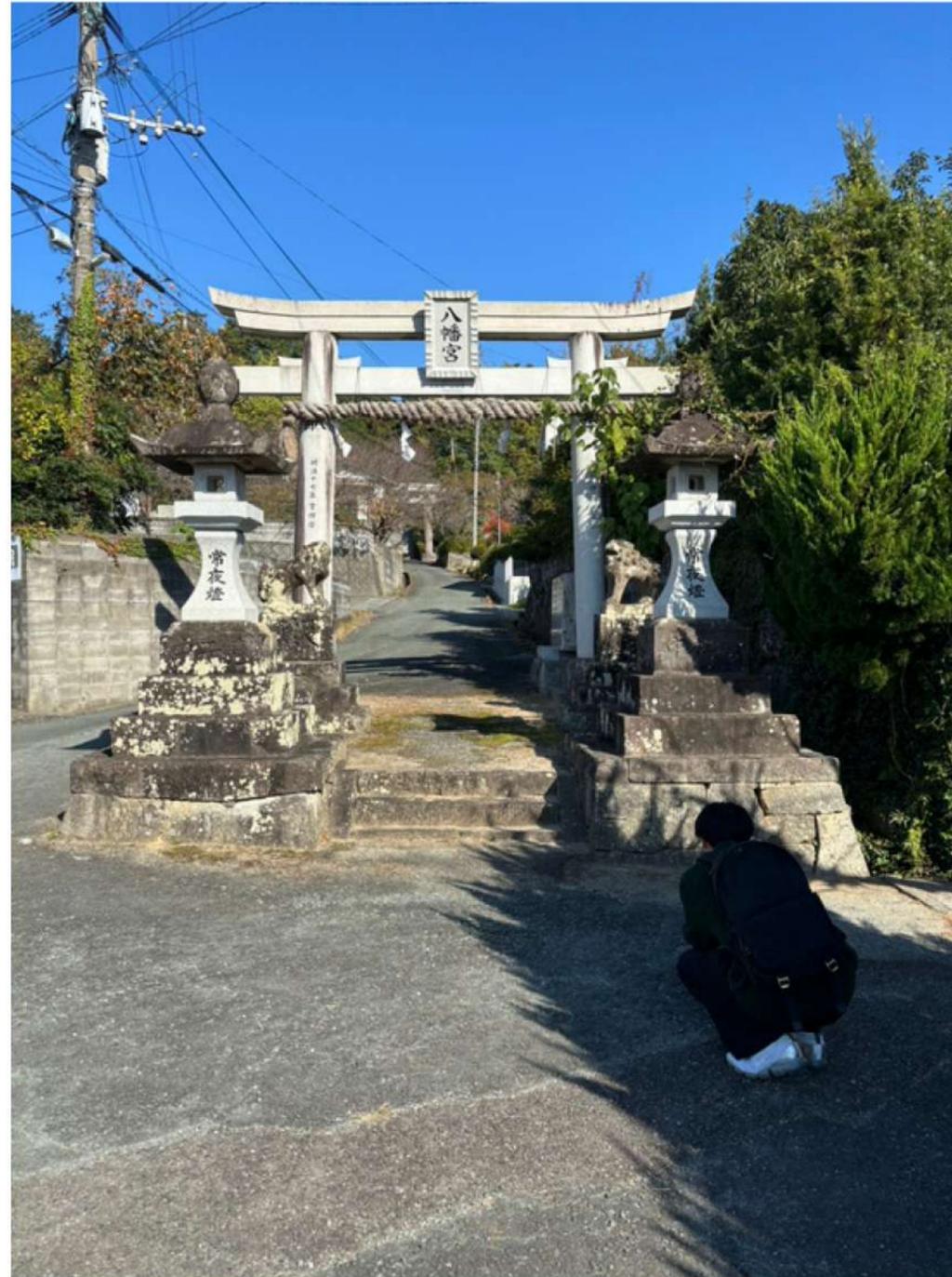
撮影テーマ

颯田開拓！

撮影プラン

- ・ 東佐與公民館駐車場集合
- ・ 佐與観音堂
- ・ 東佐與児童公園付近撮影
- ・ 貴船神社
- ・ 養鶏所
- ・ 巖島神社へ車で移動
- ・ 巖島神社撮影
- ・ 裏路地から溜池へ
- ・ ゆめタウンへ

旧二瀬町方面エリア



撮影スポット

- ・ 三経寺 → 建花寺側沿い

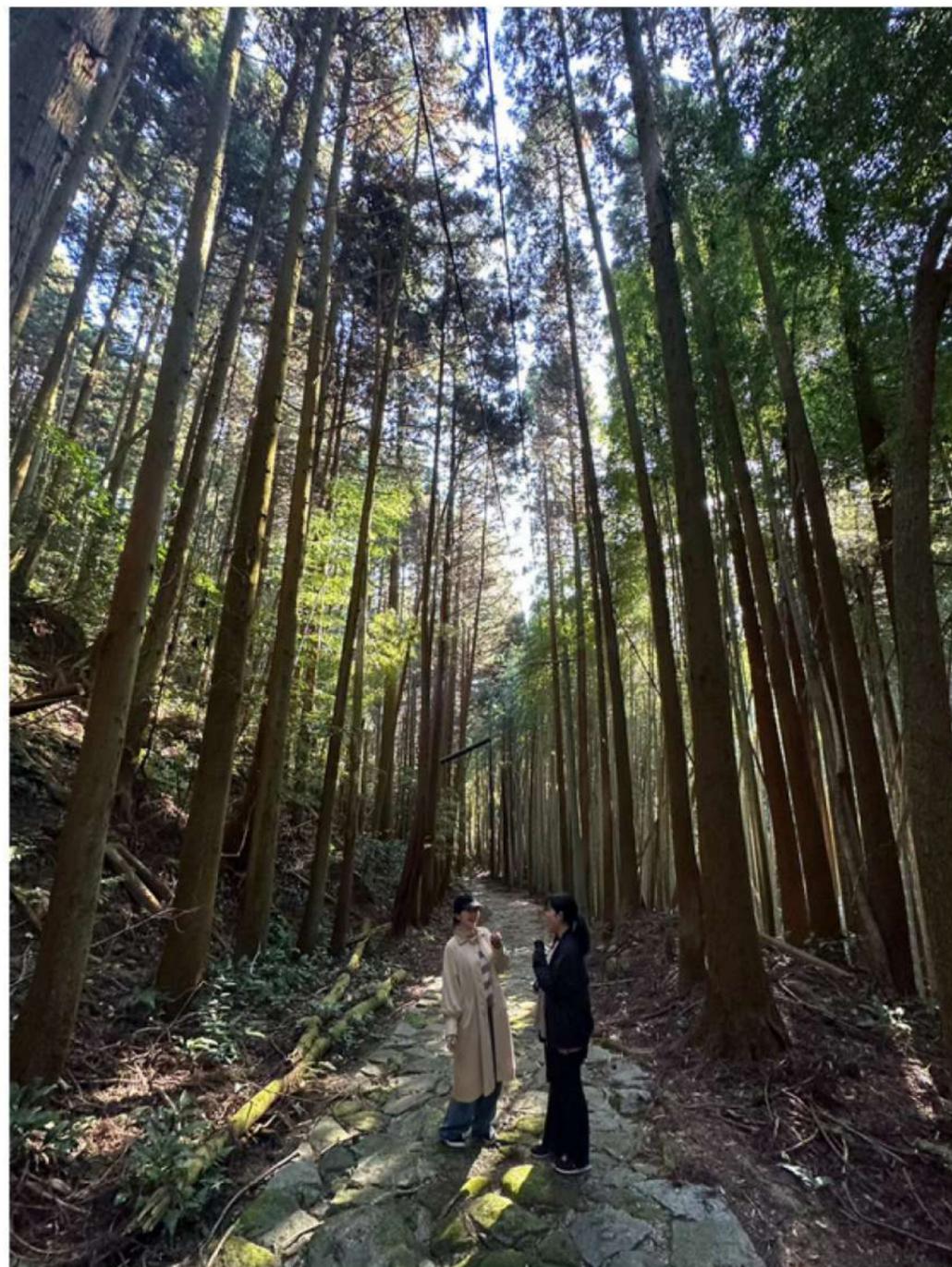
撮影テーマ

色・いろ・いろ

撮影プラン

- ・ 三経寺集合スタート
- ・ 北上し、建花寺川沿いを撮影
- ・ 一番食品方面へ周り
- ・ 三経寺へ戻ってくる
- ・ ゆめタウンへ

旧筑穂町・穂波町方面エリア



撮影スポット

- ・筑前内野（内野宿など）
- ・上穂波駅周辺
- ・天道駅周辺

撮影テーマ

ゆったり飯塚北上中

撮影プラン

- ・筑前内野 朝7時スタート
- ・内野宿周辺（長崎街道）
- ・上穂波駅へ移動
- ・筑穂保健総合センター
- ・街並みや湧水
- ・天道駅へ移動
- ・古民家が立ち並ぶ街並み
- ・ゆめタウンへ

プレイベント

近畿大学の文化祭内にて講評イベントを実施。
11月の撮影会への導入に繋げる。

参加予定部員：部長 橋田（講義）、木原（記録写真）、古澤（学生・イベント担当）

近畿大学柏の森祭でのプレイベントの実施

実施日：2023年9月23日（土）14：20～16：20 場所：近畿大学（福岡キャンパス）ログハウス

事前に告知、チラシやポスターに参加オープンチャットのQRコードを載せ、投稿してもらい、当日来てもらう。



※イベントの様子

イベント概要

1. 「これまでに自分が撮った写真の中でベストショットだと思う写真」を各自で決めてきてもらう。
2. オープンチャットに写真を事前に載せ、皆で閲覧できるようにする。
3. 橋田がカメラの基礎ミニ講座 & 講評を行う+撮影者に感想、こだわりなどを話してもらう。
4. フォトまちプロジェクトの紹介。



オープンチャットQR

REVIEW

講評会

実施日：2023年11月3日（金）14：00～17：00

場所：つなぐカフェ@飯塚（ゆめタウン内）

撮影会終了後、時間を区切り、ランチ休憩と移動を挟む。

講評会場はゆめタウン内のつなぐカフェスペース。

その日に撮った写真を参加者それぞれがその日のベストショットを1～3枚までセレクトする。セレクトが終わったら、講評会。

写真家テラウチマサト氏がオンラインにて講評。

講評会の流れ

- 14：00～15：00 写真セレクト（写真データを橋田へ提出）
- 15：00～15：20 講評準備
- 15：20～15：30 テラウチ氏オンライン入場・挨拶
- 15：30～15：35 導入（各班の撮影テーマの説明など）
- 15：35～16：55 講評会スタート
- 16：55～17：00 総評、今後の展示までの流れ

終了



講評会・ゲストレビューアー、展示アドバイザー

テラウチマサト氏

写真家・プロデューサー。2014年～富山市政策参与。

ポートレート、風景、プロダクトから空間まで、独自の表現手法で常に注目を集める。ポートレート作品においては、これまで6000人以上の俳優、モデル、タレント、経営者などの著名人を撮影。

カルティエの撮影や米国MITでの講演、2012年には富士山作品に関連し、パリユネスコ本部へ招聘され作品展示をするなど、海外でも高い評価を得ている。モノやコトの“隠れた本質”を捉える着眼点や斬新な表現手法で、フォトマガジンの発行、都内最大級の写真教室の運営や大型写真イベントの開催など、様々なイベントプロデュースや町興しを行ってきた。写真家としてのクリエイティビティを活かした幅広い創作活動を得意としており、これまでに、山口県萩市、秋田県小坂町、長野県駒ヶ根市、富山県富山市、長崎県東彼杵町、石川県金沢市、福島県郡山市、山梨県富士河口湖町など、様々な自治体で写真を通じた地方創生を手掛けてきた実績を持つ。

2023年3月、飯塚市の「まちづくりチャレンジing事業」の採択事業として、講演会を実施。



富山市政策参与（中央左：隈研吾氏、中央右：テラウチ氏）



パリ・ユネスコ本部での展示（左：ユネスコ事務局長



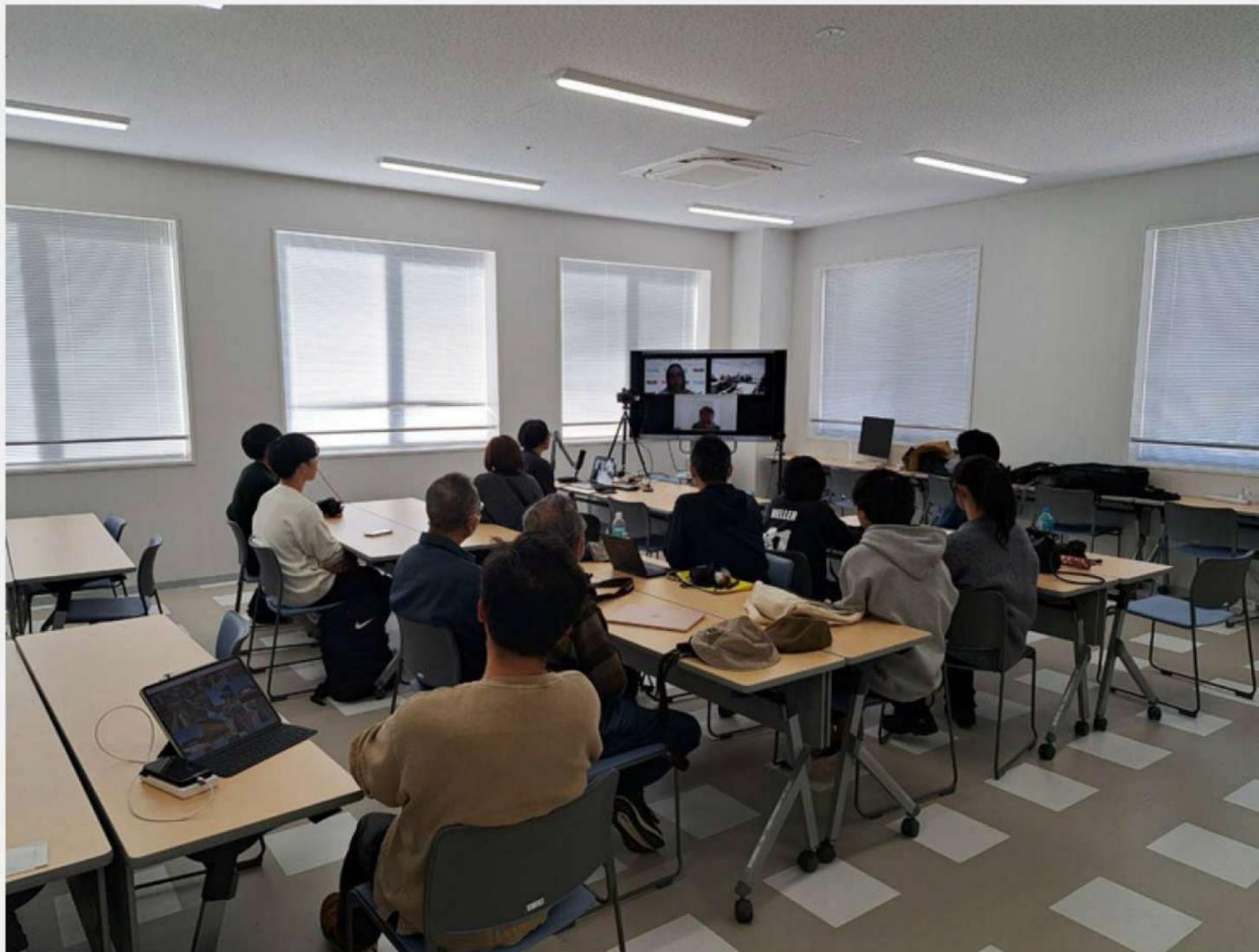
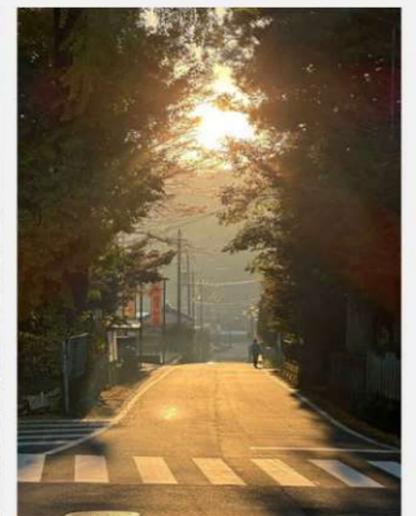
富士山世界遺産記念ボトル
（瀬祭とのコラボ）



2023年3月には飯塚市でも
まちおこしに関する講演を開催

講評会の様子

撮影会で撮影した写真を参加者が3枚セレクト。
写真家テラウチ氏がその写真を1枚1枚講評していった。
日本を代表する写真家であり、地域おこしの第一人者からのコメントに
写真の面白さや深さ、新たな発見を得るとともに、他の参加者の写真を見
ることで、その地域の新たな魅力を知る機会になった。



東京にいるテラウチ氏から、オンラインを通じて写真の講評を受ける写真部メンバー

参加者は撮影会を通じて、普段何気なく通り過ぎていく風景の中から新たな発見を得た。

EXHIBITION

写真展

実施日：本展示は2024年10月～11月頃を予定

場所：ゆめタウン飯塚/ミライ広場（検討中）

撮影会、講評会を経て、最終セレクトした写真を展示する。

展示プランは建築デザイン的な視点から、アイデアを出し合い、建築デザイン学科の近大生チームが展示案を担当。

意匠デザインされた展示を各所で実施する。

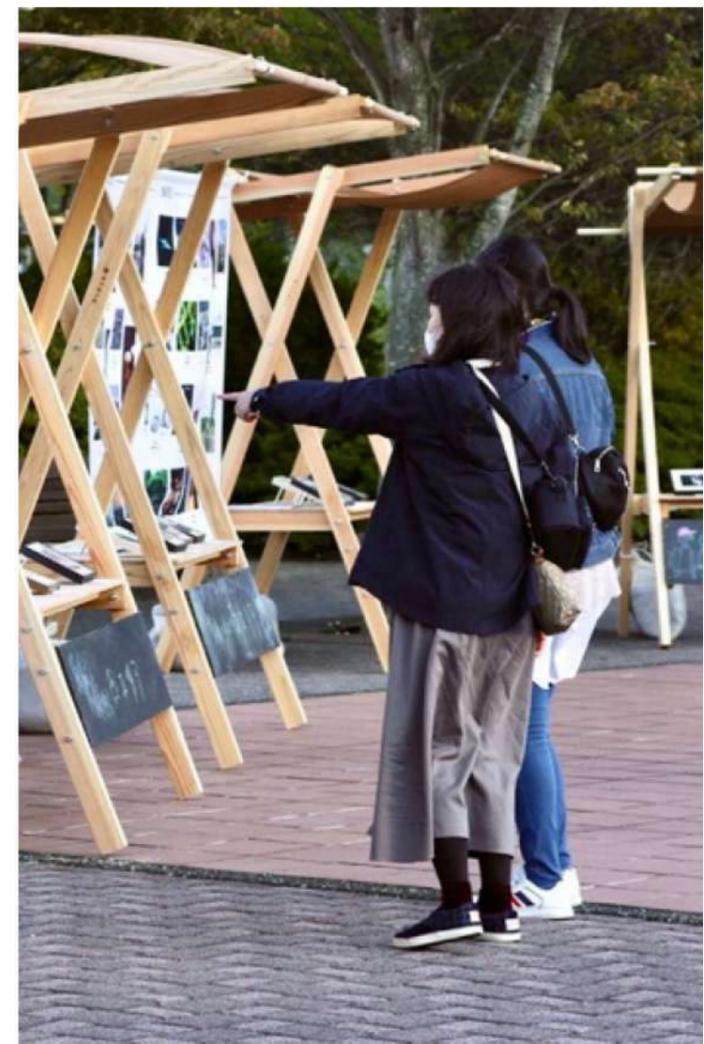
市内の公共的な場所に数箇所で開催し、さまざまな飯塚の写真を見てもらう機会を設ける。

展示までのスケジュール

数回のプレ展示を実施中。

- ・ 2月17日 まちづくりフェスタ2024（穂波交流センター）
- ・ 3月 飯塚観光協会「観光案内人養成講座」にて展示
たていわこどもマルシェにて展示（立岩交流センター）
- ・ 5月21日～7月5日 福岡県庁「福岡よかもんひろば！」展示予定

その他、飯塚市の主要な場所での展示計画進行中



プレ展示

認知度を高め、活動目的や写真の楽しさ、深さを知ってもらう機会を増やす。

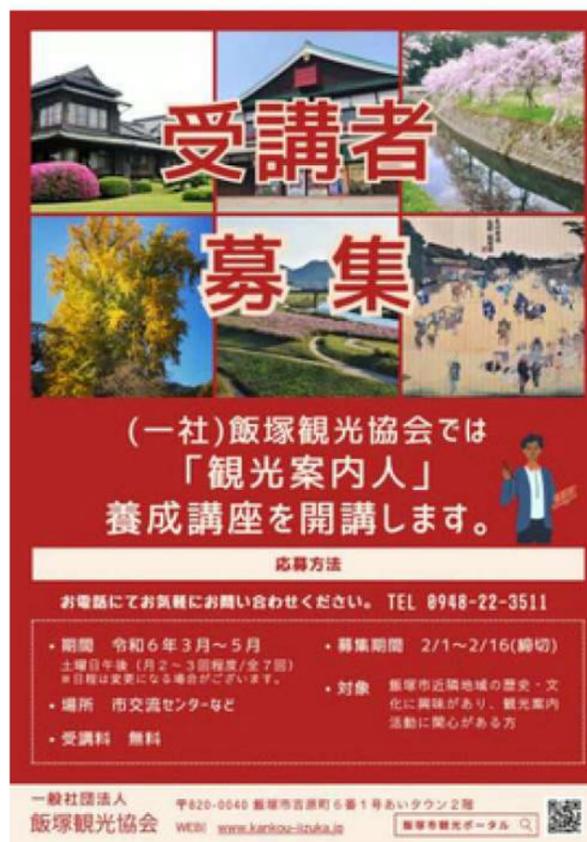
- ・ エコスタ飯塚/飯塚市役所本庁舎（2月10日）近大産業理工学部エリアでプレ展示告知
- ・ みんなのまちづくりフェスタ2024/穂波交流センター（2月17日）プレ展示
- ・ 飯塚観光協会/観光案内人養成講座（3月2日）その後、1週間展示。
- ・ たていわこどもマルシェ（3月10日）
- ・ 福岡県庁「福岡よかもんひろば！」（エレベーターホール）5月21日～7月5日展示予定
- ・ のがみプレジデントホテル展示相談中



エコスタいいづか2024



みんなのまちづくりフェスタ2024



飯塚観光協会「観光案内人養成講座」



たていわこどもマルシェ

みんなのまちづくりフェスタ2024

会場：穂波交流センター 2月17日（土）10：00～14：00 展示搬入：2月16日（金）



みんなのまちづくりフェスタにて屋外展示を実施。来場された市民の方々や、武井新市長はじめ、藤江副市長、県議会議員、市議会議員の方々にも展示をPRする機会になった。



飯塚観光協会 観光案内人養成講座

2024年3月2日（土）立岩交流センター



飯塚観光協会からご依頼で、観光案内人養成講座内で巡回プレ展示。
講座前に、展示に関してしっかりスピーチさせていただく機会をいただきました。

3月2日以降も展示をさせていただき、3月9日までこちらの場所に。
3月10日はこどもマルシェ内で第1研修室に移動し、引き続き展示させていただいた。

たていわこどもマルシェ

2024年3月10日（土）立岩交流センター



実際の展示の様子

今後の巡回プレ展示予定

福岡県庁「福岡よかもんひろば！」

観光案内人養成講座での展示で、市の商工観光課の方の目に留まったことがキッカケとなり展示することになりました。飯塚市としてだけでなく、福岡県としてのPRの意味もあり、様々な方にみてもらう機会になることが予想される。

のがみプレジデントホテル

営業部長に展示をみていただき、ホテル内での展示を検討してくださる流れになりました。支配人と展示場所に関して相談していただくことに。今後、展示場所含め相談していく予定となっています。

03.市民遺産研究会

会員1人1人が自分の興味に従い、未来の市民に伝えたいと思う、有形・無形の文化遺産や自然遺産とそれに関する物語である「市民遺産」を紹介する活動を行っています。また「筑豊近代遺産研究会」と連携したフィールドワークも企画しています。

活動報告

晩秋の10月27日(金)、私たち市民遺産研究会6名はレンタカーに同乗し、今回の研修目的地である唐津に出発。数年ぶりの遠出だった。最初に訪れたのは国指定重要文化財の旧高取邸。杵島炭鉱主として財を成し、地には3つの玄関があり、最盛期には34の部屋に100人程の使用人が働き、大広間には能舞台があるという大邸宅だった。贅をつくした室内には、豪華な襖絵や能狂言に題材した杉戸絵、動物や植物を透かし彫りにした欄間が特徴で、トイレには有田焼の陶器が使われ、寝室と客間にはモダンな洋式暖炉が備えられていた。

唐津湾を見渡す大広間の奥には5メートルの檜の能舞台。この部屋は両横を広げれば30畳にもなり、能鑑賞や重要会議場として、大隈重信などの要人が数多く訪れた。能舞台に直面する欄間には兎、猿、鹿、鶴などが、まるで能を見るように彫ってあった。また、能舞台の部屋裏に描かれた、松、竹、梅、紅葉などをあしらって、春・夏・秋・冬を表現した優雅な襖絵も印象的だった。





室外に出て潮騒の松並木に沿って外庭散策を終えた私たちは、楽しみにしていた昼食会場の呼子へと向かった。

呼子と言えば、“イカの活き造り”が定番。刺身を食べた後の残ったイカを天ぷらにするか、塩焼きにするか迷い悩んだ結果、3人前に分けた「天ぷらと塩焼き」両方の味を堪能、本場のイカの活き造りは格別だった。

次の目的地は名護屋城跡。豊臣秀吉が文禄・慶長の役の本陣として、僅か5ヶ月で築城させた名護屋城は大阪城に次ぐ規模を誇ったが、今は石垣だけが往時の姿をとどめていた。大手口から坂道を上り本丸(天主台)に着くと広場の中央には名護屋城跡の石柱(写真)が建ち、少し離れたところには「太閤が睨みし海の霞かな 青木月斗」の句碑もあった。秀吉の中国(明)や朝鮮への野望は見果てぬ夢、海の彼方に漂う「かすみ」だった。

玄界灘を望む高台には全国から参集した諸大名の陣跡説明版があり、加藤清正や福島正則、黒田長政、徳川家康などの名だたる武将と並んで「足利義明」の名前を見つけた。室町幕府15代にして最後の将軍だった義明は織田信長から京を追われ、毛利氏や島津氏を頼って諸国を流浪し、のちに秀吉に仕え重臣として1万石の厚遇を受けた。時代に翻弄され続けた前将軍は秀吉家臣団の一員としてこの地に来ていたのだ。

朝9時に出発した私たちは「研修」と「親睦」の2つの成果を土産に無事帰着、締め言葉は「お疲れ様」。その夜、風呂上がりの東の空には十三夜の月が輝いていた。

(山下記)

04.つかこうへいと筑豊研究会

日本の演劇界の風雲児と呼ばれた劇作家「つかこうへい」は、筑豊の嘉麻市出身です。

筑豊の人々に「つかこうへい氏の作品」（小説、演劇、映画）が身近に親しまれ、筑豊の若者たちの文化意識が向上し、心豊かな生活に結び付くよう、つか作品や筑豊の豊かな文化を学ぶ場となるよう活動をしていきたい。

活動報告

2024.07.10 つかこうへいさん14回忌「すかぶら忌」を開催しました。

2010年7月10日に亡くなった劇作家で脚本家、直木賞作家のつかこうへい氏の命日です。今年は14回忌の法要「すかぶら忌」を、嘉麻市の善照寺にて開催いたします。

つかこうへい氏は、日本の「芝居を変えた男」「つか以前つか以後」と言われ、1980年代から2010年に亡くなるまで、常に演劇界に新風を巻き起こし話題になりました。つかこうへい氏は筑豊は嘉穂町（現・嘉麻市）の出身で、この筑豊で育ったからこそ、独特な作品が生み出されたと思われます。

そうしたつかこうへい氏を偲び、法要を行いますので、ご参加頂きますようご案内申し上げます。

日 時： 7月10日（月） 13時30分～

場 所： 善照寺 嘉麻市上西郷590



05.古代のロマンに酔う研究会

遠賀川流域が古代文化で栄えた地域であることを全国的に広める。

また、学究的な研鑽を積みながら、色々な催し物を企画し、歴史の嵐を吹かせなければと想っています。

※遠賀川上流古代祭り実行委員会(団体会員)が運営している研究会

遠賀川上流古代祭りへのお誘い

～ ふるさとの 歴史にふれよう 誇りを持とう～

主催；遠賀川上流古代祭り実行委員会

福岡県アンビシャス運動開設20周年事業実行委員会

後援；飯塚市、飯塚市教育委員会、地区ゼミ、

協力；子育てオアシス

会場：飯塚市穂波交流センター

飯塚市穂波秋松408 TEL0948-24-7458

日時：令和4年11月6日(日) 13時～14時30

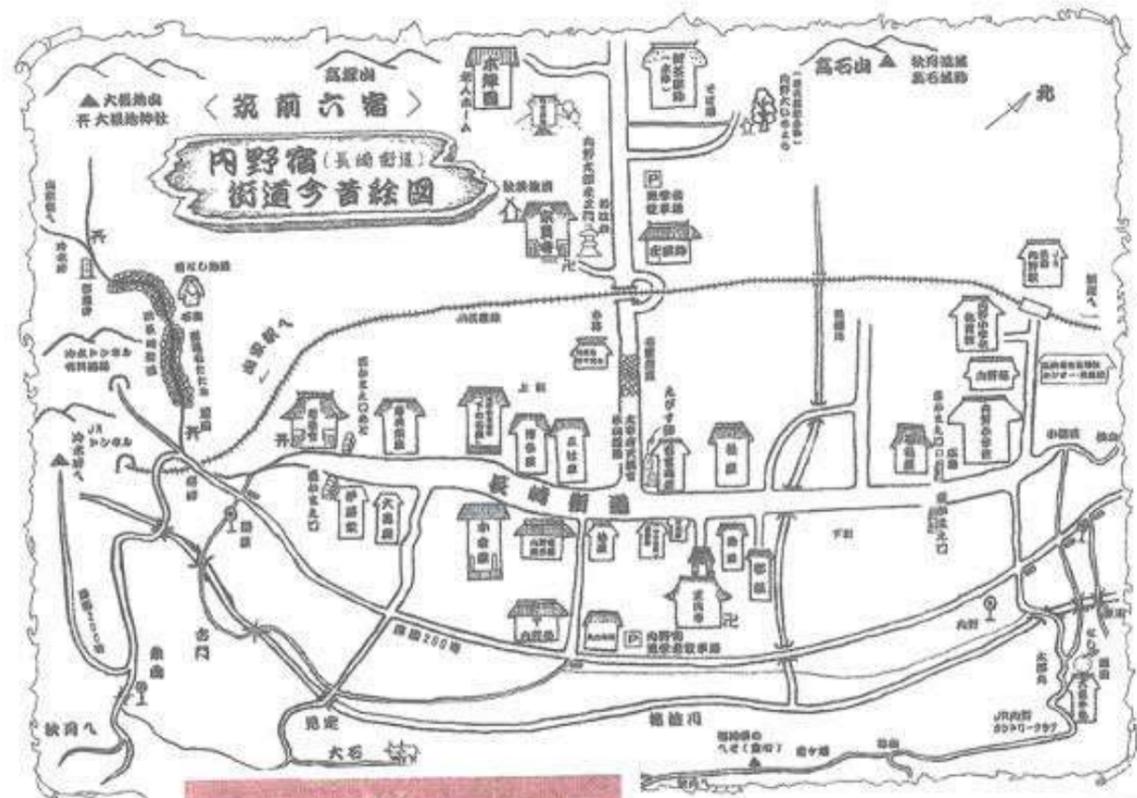
実施内容【No.1】

(1) 長崎街道とシュガーロード

- ① 江戸時代の遠賀川上流の様子を探ろう。
- ② 長崎街道って何でしょう。
- ③ シュガーロード(砂糖の道)って。
- ④ 飯塚に大名行列や象が通ったて本当なのかな。
- ⑤ カステラはどうして生まれたのでしょうか

(2) 地域の歴史研究家の対談をお楽しみください。

○ 原田青夜氏 ○ 竹下茂木氏



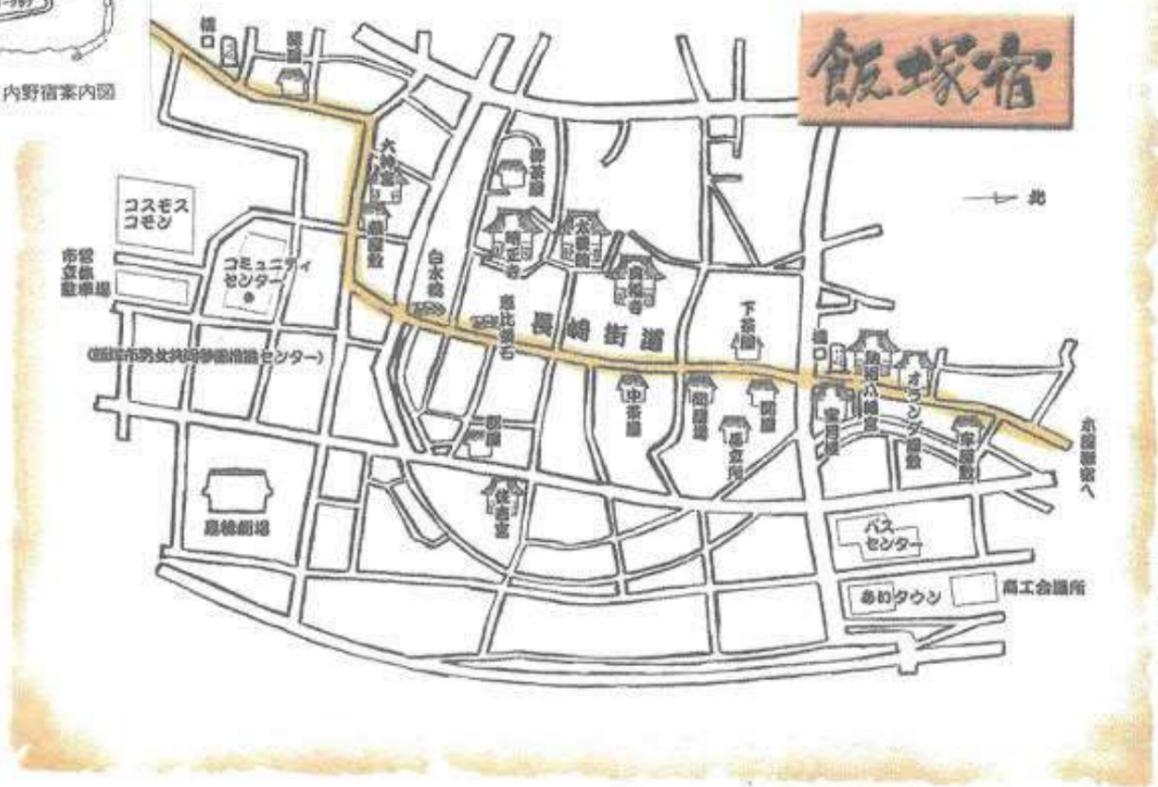
内野宿
飯塚市

飯塚から国道200号を冷水峠にむかって進むと、右側に内野郵便局があり、そこを右に入っていくと旧長崎街道に出る。内野宿は国道200号からやや外れているため、歴史ある町家建築や脇本陣(長崎屋)や両替商(小倉屋)など町家や古民家、路地、水路、古木などの街並み、歴史的景観が残り、宿場の面影を留めている。長崎屋はビクターセンターの機能を持ち、展示見学、食事休憩もでき、宿場町の歴史や文化を知りながら散策できる。

内野宿案内図

飯塚宿
飯塚市

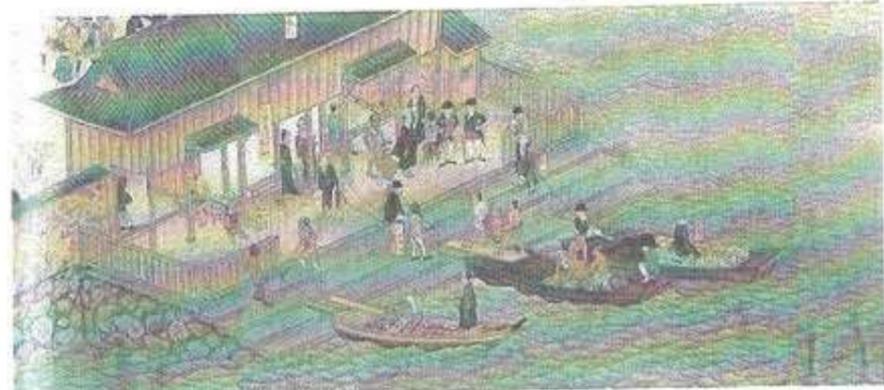
飯塚宿は縄文・弥生時代から開け、前漢との交流もあった先進地で、穀倉地帯でもあった。江戸時代は遠賀川水運の河岸と長崎街道の宿場町として栄え、宮町方面から本町商店街・東町商店街のアーケドを抜けて、向町地区にかけて街道筋が残っていたが、宝永7年(1710)と宝暦9年(1795)に大火に見舞われており、現在では完全に商店街化しているため、宿場町の面影は留めていない。



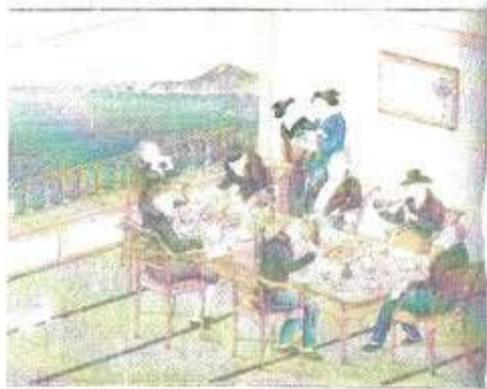
飯塚市で作られた旧街道案内図



左/ローラーミルで砂糖きびを搾る 右/砂糖きびの収穫「中国製糖園」より（東京外国語大学AA研蔵）



「出島水門」石崎融思筆『寛政図説巻』より（長崎歴史文化博物館蔵）
水門では番頭や役人が立ち会うなか砂糖類が運揚げされた。



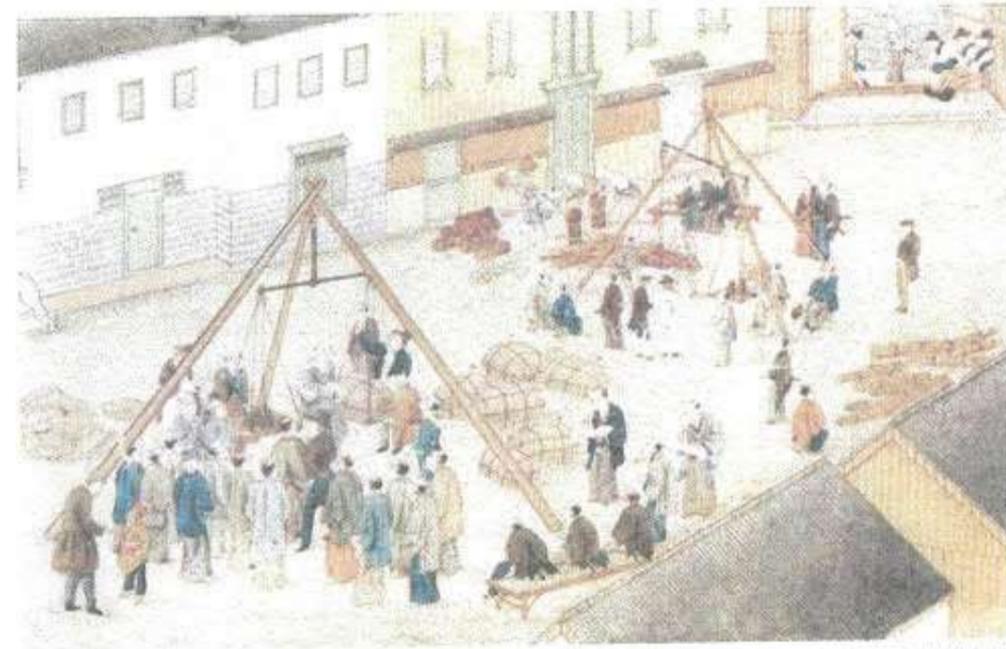
日本遺産に認定された「シュガーロード」

「日本遺産(Japan Heritage)」とは、文化庁が認定した地域の歴史的な魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーのこと。そのストーリーを語る上で魅力ある文化財群を、国内外に発信することで地域の活性化を図ることを目的としている。

九州北部3県(長崎、佐賀、福岡)の8市(長崎市、諫早市、大村市、糟野市、小城市、佐賀市、飯塚市、北九州市)が一体となって2008年(平成20)10月31日に「シュガーロード連絡協議会」を設立し、「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」の日本遺産への認定申請をしてきた。その結果、2020年(令和2)6月19日に「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が、日本遺産に認定された。

協議会では、長崎街道沿いに名物として代表的な菓子を紹介して観光振興などに役立つ活動をつづけている。

その代表例をご紹介します。



川原慶賀が描いた砂糖を計量する出島内の様子(長崎歴史文化博物館蔵)

象の旅

明正寺に來た。冷水峠を越えた象はこの境内に小屋がけして泊ったと思われる。寺の過去帳の欄外に、「從長崎 象献上飯塚泊」と、享保一四（一七二九）年三月二二日分に書かれている。

長崎街道は文明伝播路であったから、西洋や中国の珍しい品物や優れた学問、芸術を全国に伝えた。その中の一つが、当時の人を驚かした象の通行である。はるばる江戸まで、將軍へ献上されるために出かけた。

高野村（福岡県若宮町）庄屋の『有吉家記録』に、「公方様へ天竺より大象献上。酉三月長崎より（筑前）六宿通る。甚だ国中の珍物故、遠近の人見物に參る。象長さ九尺、高さ七尺、〇〇〇（明正寺カ）に家作、この内象を入れ、その後は出し入れなし」とある。

新山崎村（小竹町）庄屋林家文書『万年記』にも書かれている。「象通り申す事享保一四酉三月二三日。飯塚へ泊まり、小竹休木屋瀬泊り。そう（象）給（食べ）申すもの、ばしょう、ひめ草、手いたかづら、九年母、笹篠、その外。水をのみ事一日に五斗宛。足にうしなし、ゆひ（指）なふして、つめ大栗のことし」とあって、象の食べ物なども書かれている。

前章の冷水峠のところでも書いているが、この一年前に雄雌二頭の子象が渡來した。一頭は病死し、雄象は春を待つて三月一三日に長崎を出発して、ここ飯塚まで四五里（二八〇キロ）を一〇日かけて歩いた。旅人の通常の倍の日数をかけたのんびり行程だ。あの巨体である、川渡りに峠越えと歩行に苦難がつきまとったろう。街道筋では象見物に沸き立った。一目見ようと遠くからも集まってきた。その中をノッシノッシと象は進む。

この後小倉から渡海して下関へ行き、中国道を歩いて四月二六日京都着。二日後に参内して中御門天皇に拝謁。御前では膝をついて深々と頭を下げたそうだ。「広南從四位白象」の官位を頂く。

「時しあれば外の国なる獸をけふ九重にみるぞうれしき」と、天皇は詠われた。

もちろん京でも人気を集め、この時造られた象の彫塑が島原城資料館に展示されている。右前足に鎖をつけられ、赤毛氈を着た優しい目の子象。紅紗の着衣の上に萌黄色の練綾をつけ、鳶口を手綱代わりにして象に乗り操る譚数は、日除け帽をかぶっている。前には京美人も並んでいる。京を闊歩している象がいきいきと刻まれている。

長崎を離れて実に七三日目、五月二五日に江戸到着。そして二七日には江戸城に上がり、將軍吉宗とご対面した。残念なことに吉宗が象をどう見たかは伝わっていない。この後、象は一三年間浜御殿で飼育され、たびたび登城した。しかし寛保二（一七四二）年の暮れに病死した。

ノッシ! ノッシ! と象が歩いた

～享保14年・長崎街道“象の旅”～

増川雅一

享保14(1729)年3月13日長崎を出発した象は長崎街道57里(約223.8km)を完歩し、3月25日大里海岸から船で関門海峡を越え江戸へ向かった。

25宿の長崎街道沿いでは、初めて目にする“珍獣”象を一目見ようとする住民たちが殺到した。記録に残る「象の旅」をたどってみることにする。

大波止から唐人屋敷まで2頭が歩いた

象は唐船に乗ってやって来た。享保13(1728)年6月13日長崎。廣南(ベトナム中部)生まれの7歳の牡と5歳の牝の2頭の象が男女2人の象使いに引かれている。

「享保十三年戊申年、二十二艘入津、六月十三日鄭大威廣南仕出し船一艘入津し象二疋牽渡す。象使いの廣南人二人付添い入津す」(『長崎実録大成』長崎文献叢書)

なにせ大きな象である。船から降ろすにはどうしたらよいか。初めての経験に長崎奉行所は一週間近くも額を寄せ合ったが、徒労であった。

大波止に接岸した船と陸地間に材木を並べて上陸させた。そして、逗留する唐人屋敷まで歩いて進んだ。象使いは引綱を使わず、鷹口のようなものを象の体に打ち込んで象を引き廻したという。

「同十九日右の船を大波止に引付、材木をならへ陸地に作續、象を本船よりおろし、唐人屋敷上段の明き部屋に被差置之」(『長崎実録大成』長崎文献叢書)



<「象圖」享保14(1729)年>

8代將軍吉宗公の注文で象が長崎に

象がわが国にやって来たのは7回あり、今回の享保の象が初めてではなかった。

応永15(1408)年室町幕府4代將軍・足利義持に献上されたのが最初で、以後、天正2(1574)年明船博多持ち込み、天正3(1575)年大友宗麟に献上、慶長7(1602)年徳川家康へ献上と続き、今回は5回目で127年ぶりであった。因みに6回目は文化10(1813)年に長崎着。徳川家斉献上予定が返上。7回目は文久3(1863)年アメリカの商船が持ち込み江戸見世物となっている。

「享保の象」渡来は、8代將軍徳川吉宗の所望によるものであった。



<象図(騎象図)文化10(1813)年以降・長崎歴史博物館>

吉宗は鎖国体制にあっても海外に目を向け、書物や大きな体格の馬などを注文して、入港する交易船に搬送を要請しており、単なる舶来品志向にとどまらず、進んだ近代文化の流れを掴もうとしていたかも知れない。

象の注文にしても“繁殖させ各種作業の使役を考えていたのではないか”と指摘する声もある。

牝象が死ぬ大事件に奉行所は激震

長崎奉行所は、象が將軍の御用とあって総動員体制で世話に当たった。長崎奉行所在番の渡部出雲守が陣頭指揮をとり、長崎代官を務める町年寄の高木作右衛門らまでも“象御用掛”として動員された。象のお世話は、長崎上陸の享保13年6月から江戸へ旅立つ翌享保14年3月までの8か月間を唐人屋敷で過ごす予定だったが思わぬ大事件が発生し、長崎の町じゅうに激震が走った。

「此ノ牝象去年長崎ニ於テ斃ルルナリ菓子ノ甘物ヲ多ク食フ、舌ノ上ニ物ヲ生ス 象

奴療治スルニ適ズ長崎ニ豪氣ナル者ノ有テ舌ノ上ノ病ヒヲ濯取ニ象快然トシテ振尾ヲ喜フカ如シ、然レ共此ニヨツテ遂斃ルナリ」(『象志』)

「牝象が甘いものの食べ過ぎで舌に腫れ物が出来、勇敢な男が腫れ物を取った。一時は象も気持ち良さそうにしていたが経過悪く死んでしまった」

…長崎上陸後3か月、9月11日であった。悲しみの牡象は一頭淋しく日本の冬を送り、暖かくなった翌年春江戸へ向かうこととなった。

街道筋に長崎奉行から象の「トリセツ」

享保14年3月、長崎奉行三宅周防守は江戸への出発に先立ち街道沿いの藩領主に注意書きを送り無事で安全な通行対応を指示した。

「各御領内罷通候ニ付、急度道之警固被御申渡候之儀は御無用ニ御座候、然共珍敷生類故、所々及群集相障候儀可有之候

遠賀川上流古代祭りへのお誘い

～ ふるさとの歴史にふれよう 誇りを持とう～

主催；遠賀川上流古代祭り実行委員会
福岡県アンビシャス運動開設20周年事業実行委員会
後援；飯塚市、飯塚市教育委員会、地区ゼミ、
協力；子育てオアシス

会場：飯塚市穂波交流センター

飯塚市穂波秋松408 TEL0948-24-7458

日時：令和4年11月6日(日) 10時～12時30

実施内容【No.3】 [紙飛行機を飛ばそう]

規定の用紙で紙飛行機を作り。各人2回の飛行で飛行距離と飛行時間を競う競技です。

最初にあのように大きな飛行機がなぜ空中に浮いて飛ぶのかを学習します。

次いで、紙飛行機を各自飛ばし、その後競技を行います。

- ① 参加対象 20名(小・中学生以上) 参加費 無料
- ② 競技用の用紙は主催者側で準備しています。
- ③ 飛行機の形は自由です。切り込みを入れてもOKです。
- ④ 参加申し込み期限 11月4日(金)まで (先着順)
- ⑤ 連絡・申し込み先 070-1970-1287



090-4988-7454
ycymf407@ybb.ne.jp (藤江)

遠賀川上流古代祭りへのお誘い

～ ふるさとの歴史にふれよう 誇りを持とう～

主催；遠賀川上流古代祭り実行委員会
福岡県アンビシャス運動開設20周年記念実行委員会
後援；飯塚市、飯塚市教育委員会、筑ゼミ、
協力；子育てオアシス

会場：飯塚市歴史資料館

日時：令和4年11月23日(祝日) 11時30分

実施内容【6】 【郷土の古墳めぐり】

① コース：12時00分：歴史資料館発⇒立岩遺跡⇒川島古墳⇒小正西古墳⇒王塚古墳：資料館見学⇒沖出古墳⇒歴史資料館着(15時30分)

② 参加対象 (中学生以上) 定員18名 参加費 無料

② 参加申し込み期限 11月18日(金)まで (先着順) ④

④ 連絡・申し込み先 070-1970-1287

.ycymf407@ybb.ne.jp (藤江)

※ マスク着用をお願いします。検温・手洗いにご協力ください。

※ 天候(豪雨・降雪・地震等) コロナ蔓延の場合は中止します。

第4回 遠賀川上流古代祭り

主催 遠賀川上流古代祭り実行委員会
福岡県アンビシャス運動支援団体

共催 筑ゼミ
子育てオアシス

後援 飯塚市 飯塚市教育委員会
福岡県教育委員会筑豊教育事務所

協力 飯塚市各小中学校 嘉穂東高校ボランティア部 (株)えとう

ドローン教室 担当 株式会社 えとう

日時：令和4年12月4日(日)
9時45分集合 10時から12時30分

会場：飯塚市穂波東小中一貫校 体育館

定員：30名 (小学6年生から中学生、成人の方もどうぞ)

会費：無料

内容：◎ 挨拶・諸注意

1. ドロンはどうして飛ぶのか学習
2. 大きなドローンの飛行を見学
3. プログラミングを学習
4. 小型のドロンを飛ばしてみよう(個人・個人で)
※ 小型ドローンは主催者側で準備しています。
5. 上手にできたら競技会をしよう
※ 終了前に整理整頓

◎ 挨拶

※ マスク・手洗い・検温にご協力ください。

連絡先：090-4988-7454 (藤江)

発行：NPO法人

住学協同機構筑豊地域づくりセンター

第36期筑豊ゼミ

<http://www.chikuzemi.com/>

編集：第36期筑豊ゼミ運営委員会

esutema69@gmail.com（運営委員長）六谷 拓也

k-Iwanaga5097@city.lizuka.lg（事務局長）岩永 潔

第36期 筑豊ゼミ 決算報告 (2023.04.01~2024.03.31)

会費の収支					
摘要	収入	支出	残高	備考	
正会員会費 (市民遺産研究会 5,000円×8名)	40,000	32,000	8,000	活動費 4,000円 × 8名	
団体会員会費 (遠賀川上流古代祭り実行委員会)	0	0	0	未納	
団体会員会費 (福岡県建築士会飯塚地域会)	10,000	0	10,000		
正会員会費 (つかこうへいと筑豊研究会 5,000円×1名)	5,000	0	5,000		
正会員会費 (情報発信/データデザイン研究会 5,000円×1名)	5,000	0	5,000		
正会員会費 (写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会 5,000円×5名、500円×1名)	25,500	20,000	5,500		
事務局経費	0	0	0		
【会費計】	85,500	32,000	33,500		
活動費の収支					
摘要	収入	支出	残高	備考	
研究会	市民遺産研究会	32,000	31,792	208	
	古代のロマンに酔う研究会	0	0	0	
	勝手に提案研究会	0	0	0	
	つかこうへいと筑豊研究会	0	0	0	
	情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)	0	1,520	-1,520	令和4年度分 (請求漏れ)
	写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会	20,000	3,000	17,000	
	事務局経費	0	0	0	
【活動費計】	52,000	36,312	15,688		
活動費支出明細					
情報関連費					
研究会	市民遺産研究会		0		
	古代のロマンに酔う研究会		0		
	勝手に提案研究会		0		
	つかこうへいと筑豊研究会		0		
	情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
	写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会		0		
	事務局経費		0		
研修費					
研究会	市民遺産研究会		3,720		旧高取邸・名護屋城入場料
	古代のロマンに酔う研究会		0		
	勝手に提案研究会		0		
	つかこうへいと筑豊研究会		0		
	情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
	写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会		0		
	事務局経費		0		
消耗品費					
研究会	市民遺産研究会		5,620		プリンターインク
	古代のロマンに酔う研究会		0		
	勝手に提案研究会		0		
	つかこうへいと筑豊研究会		0		
	情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
	写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会		0		
	事務局経費		0		
図書費					
研究会	市民遺産研究会		0		
	古代のロマンに酔う研究会		0		
	勝手に提案研究会		0		
	つかこうへいと筑豊研究会		0		
	情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
	写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会		0		
	事務局経費		0		
雑費					
研究会	市民遺産研究会		22,452		交通費
	古代のロマンに酔う研究会		0		
	勝手に提案研究会		0		
	つかこうへいと筑豊研究会		0		
	情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		1,520		交通費等
	写真家2.0/筑豊地域おこし写真研究会		3,000		資料印刷代
	事務局経費		0		
【活動費支出計】		36,312			